

# わかやま母親通信

第66号 2018年8月1日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内  
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール:w\_haharen@wkn.or.jp

生命を生みだす母親は  
生命を育て  
生命を守ることをのぞみます

7/1(日) 第63回和歌山県母親大会 in 日高川町

HP:和歌山県母親大会

## 分科会の申し合わせ事項をもとに、各地で要求運動を！

第1分科会 親子 子育てを楽しもう！－育てる/育てられる/ともに育つ－

第2分科会 親子 作って遊ぼう！－親子で工作・科学遊び－

- 一 平和だからこそできる子どもとの「共感」を大事にしましょう。
- 一 親子で遊んでおしゃべりする機会を増やしましょう。
- 一 地域に根差して一人一人の声を聴いてくれる保育園をつくっていきましょう。
- 一 児童期の子どもたちに、さまざまな体験をさせましょう。



(感想)最初の親子体操で、小さいうちから恐怖を体験させてあげる体操を取り入れることで、これから体験する恐怖にも打ち勝っていけるという体操を教えてくださいました。一つ一つの体操には、理由がありました。コミュニケーションをとりながら、しっかりした心と体をつくっていく大切さを、また改めて教えてくださいました。子育ては、子どもと同じ方向を向いてあげること、これが全ての基本だと感じました。事実のまま話すことなど、本当に先生の発らつとしたきれいな声で、オーラと共にすごく貴重な時間を過ごさせていただきました。

(感想)たくさんのおもちゃに、子ども(小2)も大喜びでした。スタッフの方が多く付いて下さっていたので、丁寧に教えて頂けて、途中から、親は第1分科会に移動できて良かったです。  
(感想)ほんとに楽しく、早速また作りたくなるものばかりでした。子どもたちの「お～」という驚きの声、「早く作りたい～」という声に感動しました。準備等々、ごくろうさまでした。

### \*大会風景



全体会会場で、県原水協による原爆写真展も開催された

にぎわうバザーコーナー

- 一 今、子どもと教師が大変な中、みんなで、学校を子どもが安心できる居場所にしましょう。

(感想) 小学校の先生方の参加が多い中、自分が聞きたいことが話し合ってもらえるのかなと心配していましたが、退職された方や現場の先生からたくさん話が出て良かったです。道徳教育が大変になる、学力テスト対策のための授業など、大変な現状を知り、子どもや先生が安心できる学校にしていかなければということがよく分かりました。今の政治を変えていくために、若い人にどう働きかけていったらいいのか、改めて考えさせられました。



#### 第4分科会 支援を必要とする子どもたちとともに

- 一 みんなで思いを伝え合い、育ち合う支援をつなげる関係をつくっていきましょう。
- 一 ライフステージを見直して、子どもの思いを受けとめながら、今できる取組みを大切にしていきましょう。
- 一 支援を必要とする子どもが豊かに育つための条件整備やネットワーク作りを進めましょう。
- 一 子どもの支援に必要な人員を増やすように、運動を進めましょう。



(感想) 私自身、小・中学校の時に、特別支援学級に入っていたのですが、なぜ入っているのかなど、聞かれることが多かったです。聞かれても、話せなかったり黙ったままでした。両親に聞いても、少ししか教えてくれなかったのもありました。親の希望が最優先だとは知りませんでした。子どもの意思を尊重しないのかなと思いました。

この分科会で、先生方がいろんなことを考えているのが分かりました。

#### 第5分科会 登校拒否・不登校の子どもたちによりそって

- 一 自分一人で抱かえ込まず話を聞いてもらい、子どもをじっくり受けとめましょう。
- 一 登校拒否、不登校の子どもたちへの理解を深める取組みを広げましょう。
- 一 保護者や関係者が集まり、お互いに話し合える場を広くもちましょう。
- 一 子どもを受け入れる環境権・学習権を、保障させましょう。
- 一 親・子どもにとって、身近に相談できる場所、支援体制を、学校や地域に作るよう、行政に働きかけましょう。

	<p>(感想)「学校に行きたくない」という子どもたちの原因は、それぞれ違うであろうが、家での様子、学校での様子は、全くと言っていい程一緒でした。それぞれの立場の人の話を聞けて良かったです。解決する方法は、それぞれ違うので難しいと思いますが、各地域に父母の会というのがあるのが分かって、少し安心しました。</p> <p>申し合わせの内容がすごく良かったです。</p>
--	--

## 第6分科会 ひきこもりがちな青年によりそって－自分らしく生きるって？－

- － ひきこもりについて共通理解を深めるための学習を進めましょう。
- － 家族や支援者の様々なつながりを深め、家族・支援者の在り方を考えましょう。
- － ひきこもりがちな青年たちの居場所づくりと自立への支援を地域や行政に働きかけましょう。
- － しんどさをもつ青年とその家族を受けとめられる機関の情報を交流し、優しい社会の実現を求めていきましょう。



(感想) ひきこもりの家族を持つ方、学校の教師、行政の方、ひきこもりを経験した当事者、いろいろな参加者の意見が聞けました。そして、強く思ったのは、生き辛さを抱えた人たちを助けたいと考えている人もたくさんいて、でも、それぞれ個別の思いをどうしたらいいのかと思悩んでいます。それぞれの思いがうまくつながって、援助活動がスムーズになって行けたらと思いました。

## 第7分科会 語り合おう！障がい者の生活 国の役割

- － 障がいのない人との平等をはかる「障害者権利条約」を生活に活かしましょう。
- － 障がいを自己責任にすることなく権利として、国が障がい者福祉を保障することを求めましょう。
- － 精神障がいのある人が孤立することがないように、理解を広げましょう。
- － 障がい者年金受給の不安をなくすために、障がいによる生活のしづらさを含めた判定も判断基準にするように求めましょう。
- － 障がい問題と密接に関わる生活保護の切り下げに反対しましょう。

(感想) 障がい者、支援者、施設職員、親、いろんな立場からの話し合いが出来て良かった。そこで、公助に甘えるのではなく、自立しようとする心構えも必要と、障がい者の方からの発言もあり、大変良かった。しかし、国や自治体は、そんな前向きな人ばかりではないので、障害のある人みんなが、人並みに生活できるような条件を整備するべきです。福祉の人材不足や障害者権利条約でいう不平等についても、障がい者も健常者も一緒になって声を挙げていくべきだと思います。

## 第8分科会 健康に生きるために

(感想) 食事をバランスよく摂ることの大切さを改めて感じました。お菓子を毎日つまんだり、食後にはデザートをいつも食べたり、仕事が終わって夕食が9時過ぎになったりと…。数年後、数十年後の自分のために、少し考えたいと思います。

また、「エシカル」という言葉を聞きました。

購入の際は、ついつい安いものを、地元のものな

## －食－

- － 生活習慣病予防を予防するには、朝食を大切にし、主食・主菜をバランスよく食べましょう。
- － 野菜を一回増やしましょう。
- － 未来へつづく世界の実現のため、エシカル消費を実現しましょう。

### 第9分科会 防災ーその時 あなたはー<sup>1</sup>の郷救助隊の活動から学ぶー

- － まさか(想定外)を考えず、災<sup>2</sup>起<sup>3</sup>こるとの意識で生活しましょう。
- － 自宅や住んでいる地域の状況を、よくつかんでおきましょう。
- － 地震津波対策をし、「より速く、高く、遠く」へを意識しましょう。
- － 家具の固定・水・トイレ・食料の備えをしておきましょう。
- － 地域の助け合いができる環境をつくっておきましょう。

(感想)障がい者や高齢者が身近にいと、災害が起きたら何ができるかと考えてしまいます。お話を伺って、「日頃の備えとか、地域の状況をつかむとか、ハザードマップに頼り切らず自分で把握しておく」など、教えていただけてよかったです。避難所などでは女性の役割なども重要で、「梅ママ隊」として5名の女性が行かれて、食事作りの手伝いや縫い物(裁縫箱を持参した)、救援物資の整理などをされたといと聞いて感動しました。いろいろと勉強になりました。

### 第10分科会 人生を豊かに 私の生きがいー山歩き・旅の楽しさー

- － 人生を豊かに、自然を大切に、悔いのないよう生きていきましょう。
- － 和歌山県の自然や人を活かせる地道な振興策を考えてもらいましょう。

(感想)「健康で動ける間に、行きたい所へ旅をする。日本にも良い所がいっぱいある。」いろいろ映されるのを見ながらお話を聞いて、お金を使わなくても楽しめることをいっぱいされているんだと思いました。

私も、今は新婦人の仲間や地域の人たちと一緒に、縫物をしたり体操をしたり食事をしたり楽しく過ごしていますが、しばらく旅には出ていないなあ。孫の世話や母の世話をしてきたが、自分なりに楽しむ旅にもいいなあと思います。



### 第11分科会 どうなる？介護制度／ぬくもりのある介護施設をめざして

- － 介護保険制度の現状をよく知り、高齢者と介護労働者が安心して暮らせ、働けるように、介護保険制度を充実させましょう。
- － そのために、私たち一人一人ができることに取り組みましょう。

(感想)介護保険制度の説明は、とても分かり易かったです。問題点もよく分かるように挙げて下さり、今後の活動にとっても参考になりました。「なごみ」さんは、利用者さんのご希望にできるだけ沿って介護されていて素晴らしいと感動しました。ボランティアさんで運営されているサロンがあるとのこと、それも魅力がありますね。政権を変えて介護保険制度の改善を、という考え方に、私も同感です。



## 第12分科会 特別講座 ①税にヒミツ・マイナンバー問題 ②変わる医療といのち

手違いにより、今年は「申し合わせ事項」がまとめられていません。各分科会の「申し合わせ事項」は、母親大会の特徴であり、母親運動(要求運動)の基になるものであることを再度確認し、来年は、「申し合わせ事項」をまとめられるようにしたいと思っています。



(感想)消費税率の低い人に辛い悪法だということがわかりました。マイナンバーカード化しないことも、意思表示になるでしょうか。税務署への申告に、記入してしまいました…。大勢参加されていました。医療・介護を、憲法を変えてまで自己責任へ持って行こうとする国の動きに、学習と運動が大切だと思いました。

## 第13分科会 特別講座 核兵器禁止条約の採択とこれから／北朝鮮問題

- 一 政治に関心をもち、嘘を見抜き、国民雄主権を守りましょう。
- 一 署名の力を信じ、平和を目指す署名に取り組みましょう。

(感想)各国の運動が活発化(Icon)する中で、日本政府の反対の態度を腹立たしく思いました。でも、世界の世論作りに、「核兵器禁止条約」は役立ちます。日本での世論作りに頑張りたいと思います。

米朝会談の積極的意義をとらえ、日本の自主的な外交を進めていきたいと思いました。

## 第14分科会 東日本大震災の被災地を視察して／核のゴミ中間貯蔵施設問題…??

- 一 フクシマを忘れないために、できることを考え現状を広く知らせていきましょう。
- 一 原発再稼働に反対の声を上げ続けましょう。
- 一 フクシマの子どもたちの健康を守る活動を広げましょう。

(感想)ビデオを見せていただいて、東日本の震災地の今、復興の様子や今なお復興に向かえない現状を知りました。私に何ができるのか、考え続けます。

また、南海トラフ地震が迫る中、危険な中間貯蔵施設は反対です。「想定外」のことが起こるのが災害ですから。いろいろ勉強させていただきました。

## 第15分科会 沖縄の現状を知ろう 学ぼう -DVD「戦場ぬ止み」視聴-

- 一 沖縄の現実をもっと知り、行動しましょう。
- 一 沖縄の戦いに連帯して、平和憲法を一言も変えることなく守りましょう。

一 基地問題を、我が事として受け止めましょう。

(感想)DVDを視聴させていただきました。怒りの声、感動の涙をあちこちで見受けました。私も、辺野古での座り込みを体験しました。それは、暑い最中でも不屈に戦う姿で、あきらめないで語りける歌を交えながらの行動でした。

もっと知らなければと、改めて感じました。みなさん、同じ思いで、私もさらなる運動を広めたいと感じた分科会でした。

## 第16 分科会 日高の戦跡を知り、9条<sup>ミチノエ</sup>について考えましょう

一 戦跡など戦争の歴史を学び、<sup>- 5 -</sup>つなげましょう。

## 第17 分科会 見学 由良町の軍事戦跡めぐりから学ぼう

(感想)由良町に生まれて、今日まで由良町に住んでいますが、戦跡めさせてもらいました。母が先生の話聴き、昔を思い出し、涙が出てく戦争の話をしてくれていたんで、今日、母と一緒に参加できてよか

(感想)友達に誘われて、何気なく参加しました。「由良に軍事跡？」と思いました。先生に説明していただきながらめぐり、こんなにもたくさんの戦跡があったのだとびっくりした。

跡を巡り、戦争のためにこれ程も人々が命を捨て、戦争のために尽くした日々を思いをはせ、苦しい気持ちになりました。大量のお金を使い、人々を使い、何のためにと思いました。爆弾は関東に比べれば少ないですが、亡くなった人もいたということ、戦争の傷跡を知った半日でした。



一 憲法を守る運動を上げましょう。

一 米軍による危険で無法な訓練に抗議しましょう。

(感想)初めてこんな分科会に参加しました。私たちが住んでいる日高地方に、こんなに戦争の爪跡が残っていることに驚きました。

改めて、平和について考える機会となりました。

## 7/14 県実行委員会議での総括・反省より

(現地事務局より)

- ・参加目標が、前回の300から今回350になっていて、「えー。」と思ったが、390余名参加した。
- ・若いお母さんが多いと思った。任せてもらえたので、1・2のような分科会ができた。
- ・現地責任の分科会について、「しんどい面もあったが、やったらよかった。」の声にホッとした。
- ・見学分科会は、世話係が前日草刈りをしてくれた。由良町へ「保存を申し入れよう」と話した。
- ・介護の分科会は多くて、「聞こえない」の声に、助言者が真ん中へ移動してくれて感激したの声。
- ・Keiさんについては、「よかった」と「歌が多すぎた。もっと話を」の両方の評価があった。→(感想文では、「歌も話も生き方にも感動した」「来てよかった」「元気が出た」の声、多数。)
- ・駐車場での混乱はなかった。弁当も、まあよかったということだった。

(全体交流より)

- ・車いすで来た人が、「みんな親切。声をかけてくれた」と大変喜んでいた。
- ・「申し合わせ事項」で手間取った所もあったようだ。新しい内容の分科会は、評価が分かれているように思った。→(新しい試みには評価が二分するだろうと承知の上で取り入れてみた。)
- ・2名の聴覚障がい者の参加。手話通訳を行政に自分で要請した方と通訳なしで困った方と。
- ・運動交流のある全体会の構成がいいと感じた。・途中で緞帳が降りて、どうなるかと思った。
- ・受付案内人も立てたが、「会場がわかりにくかった。」の声。案内掲示などでもう一工夫が必要。
- ・クーラーのおかげで、病人もけが人も出ず、良かった。→(今年、救急箱を用意したが…。)